

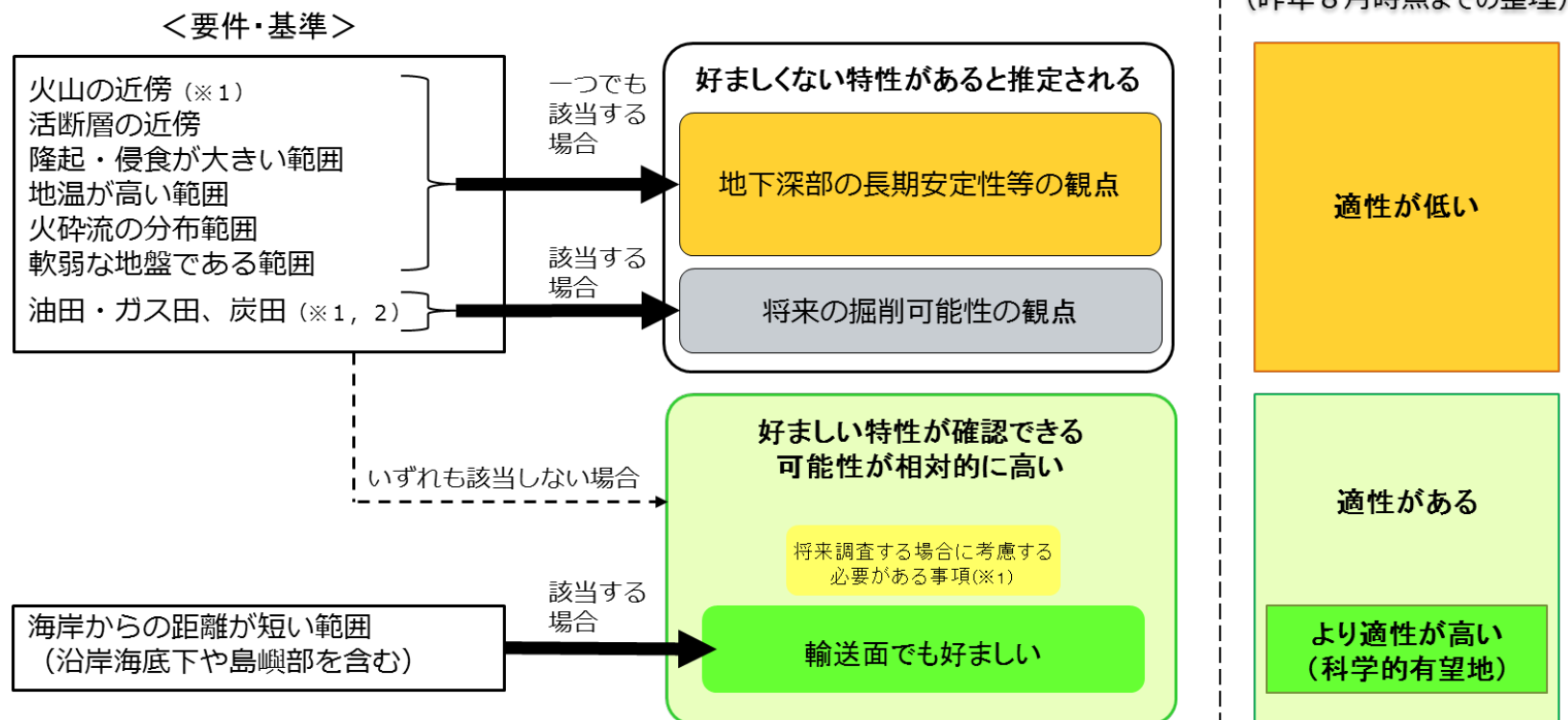
# 地域の科学的特性を示すマップの提示 に向けた検討事項について

平成29年4月  
資源エネルギー庁

# 1. 地域特性の区分と今後の処分地選定調査との関係について

- 技術WGから示された地域特性の区分について、将来の処分地選定調査をNUMOとして効率的に実施するという観点等を総合的に勘案し、「好ましくない特性があると推定される」地域は調査の対象として想定せず、「好ましい特性が確認できる可能性が相対的に高い」地域は調査の対象となる可能性がある、と整理できる。
- なお、全国的な対話活動は、地域特性区分にかかわらず、国・NUMOで実施していく。また、NUMOとしては、「輸送面でも好ましい」地域において、重点的な対話活動を実施していく。

## 技術WGで示された地域特性の区分案



(※ 1) 火山中心の精査が必要な火山、鉍量が不明確な炭田、火山性熱水・深部流体、金属鉍物については、処分地選定調査時に考慮する必要がある事項として整理する。

(※ 2) 鉍物資源については、当該資源が存在しうる範囲を広域的に示したものであることに留意が必要。

## 2. これまでの検討成果を踏まえた国民向けの対話活動等について

- 地域の科学的特性を示すマップの提示は、長い道のりの一歩として冷静に受け止められ、その後の国民の関心や理解の深まりに資するものとなることが重要。
- したがって、マップの提示前の段階で、マップの位置づけや内容、検討経緯等について改めて広く周知していく。このため、両WGの議論を踏まえた国民向け、自治体向けの説明会等を全国的に実施する。  
(※詳細は準備が整い次第公表)
- その際には、特に以下の点を重視してお伝えしていく。
  - － マップ提示の趣旨、処分地選定プロセス全体における位置づけ
  - － 基本方針改定以降の様々な対話活動の中で得た気づき（地上保管への関心や地下深部に対する一般的な不安など（参考参照））、今後の政策や事業への活かし方
  - － 処分事業の実現に向けて国民理解を得るため、地層処分の安全確保の考え方のみならず、地域共生のあり方など社会的側面を含めて議論を深めていくことの重要性
- なお、マップについては、「我が国の地下深部の科学的特性等について全国マップの形で分かりやすく情報提供する」という趣旨を踏まえ、今後は「科学的特性マップ」と呼ぶこととする。

# (参考) 科学的特性マップの位置づけ等について①

## ● マップ提示の意味合い（前回WGで確認）

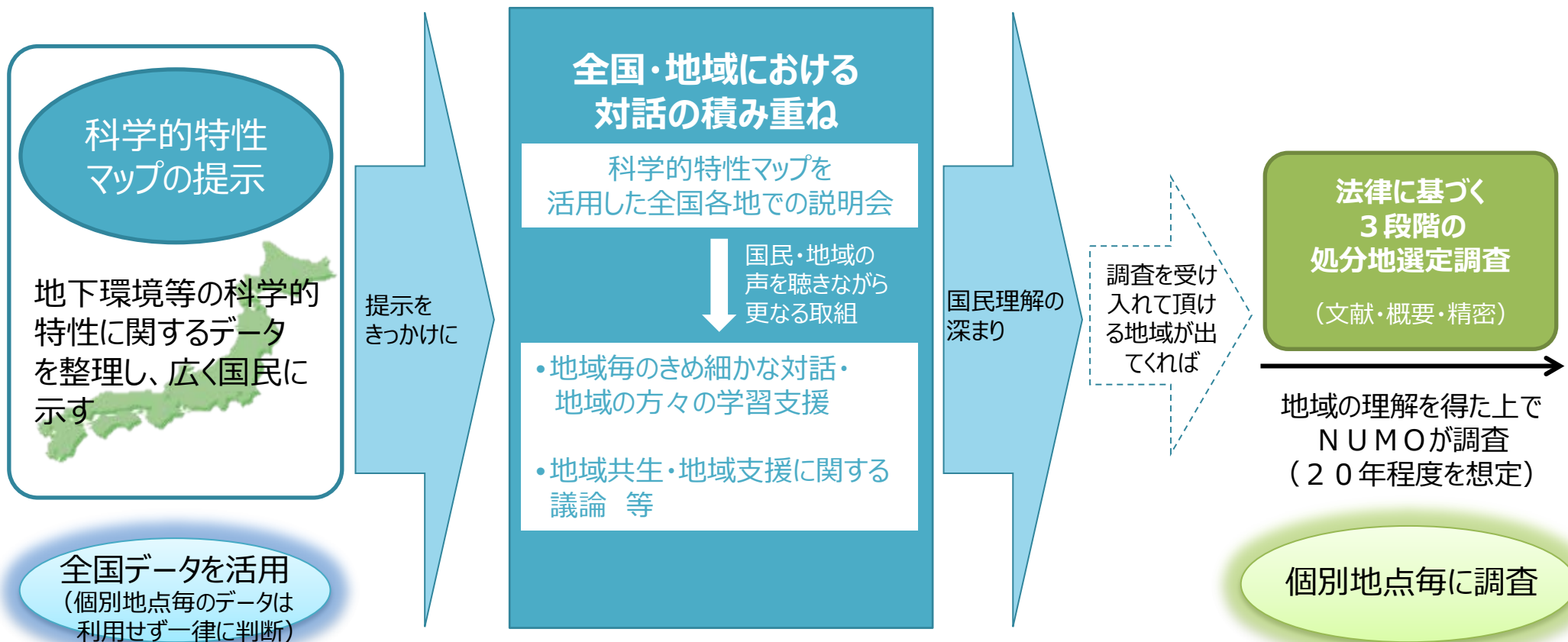
| マップ提示は「〇〇である」                                                                       | マップ提示は「××ではない」                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| ○ <u>処分地選定調査を実施する前の段階において、既に存在する全国的なデータに基づき、全国の各地の地下深部等の科学的な特性を情報として提供するものである。</u>  | × 将来的に実施する <u>処分地選定調査を先取りするものではない。</u><br>× <u>調査地点を「選定する」ものではない。</u>              |
| ○ 地層処分についての <u>国民の関心と理解を深めることを期待するものである。</u>                                        | × 調査の受入れについて自治体に <u>何らかの判断をお願いするものではない。</u>                                        |
| ○ 火山や断層といった様々な要素を考慮しても、 <u>地層処分に好ましい地下環境は日本に広く存在するであろうとの科学的見通しを共有することが大きな目的である。</u> | × 「ここならできる」という場所を <u>確定的に示すものではない。</u><br>× 「ここしかない」という場所を <u>ピンポイントで示すものでもない。</u> |

## ● 処分地選定における段階的調査の必要性のポイント（前回WGで確認）

- 処分地を選定するには、ある具体的な地点が安全確保上必要とされる水準の特性を有しているかどうかを科学的に見極める必要がある。そのためには、綿密な現地調査を段階的に実施する必要がある。
- 処分地選定は、あくまで一定の安全上の基準がクリアされる地点を探す努力であって、「最適地」というものが存在することを前提とするものではない。
- 調査に協力して頂いた地域には、調査の成果について情報提供を行い、安全面について理解して頂くとともに、事業の受入がその地域の将来にプラスかどうかなども含めて、更に調査を進めるか等を検討して頂くことになる。このため、できるだけ複数の地域に調査に協力して頂くことが重要である。

## (参考) 科学的特性マップの位置づけ等について②

- 科学的特性マップの提示は、処分実現に至る長い道のりの一歩。



# (参考) これまでの対話活動を通じて得られた主な気づきと対応①

## (世代責任と地層処分)

- 地層処分という方法が現時点でベストであることについては多くの方の理解が得られると考えられるが、「地上保管を続けている間に、何らかより良い技術が登場するかもしれない」という可能性への関心も存在。
- 地層処分を追求せずに単に地上保管を続けるだけでは、将来世代の選択肢をかえて狭めリスクを増やしてしまうということについて、世代責任の観点から一緒に考えてもらうことが重要。その際、将来世代の選択の余地を残すという新たな基本方針も説明。回収可能性の確保に関する調査研究も着実に実施。

## (地下深部の安定性)

- 地下深部は、一般的な特徴として長期的に極めて安定した環境があると言えるが、そうした専門家間の認識が広く国民に共有されているとは言い難く、地下こそ不安定といった印象を持つ方も存在。
- 地下深部の一般的な特徴を説明した上で、火山や活断層など地層処分を行うに当たって注意すべき特性とその対応策を明確にしていく。(この点についての理解増進は、科学的特性マップの提示の狙いの一つ)

## (科学的特性マップと段階的な処分地選定調査との関係性)

- 科学的有望地という表現に様々な誤解が生じた理由の一つには、地点ごとに綿密な調査を重ねなければ科学技術的にも社会的にも処分場所は決まらない、ということが必ずしも理解されていないことがあったと考えられる。
- 処分地選定調査を段階的に行うことの必要性や、その前段階として科学的特性マップを提示することの意味を丁寧に説明していく。

## (参考) これまでの対話活動を通じて得られた主な気づきと対応②

### (事業イメージの具体化と社会的側面の検討)

- これまでは、地層処分とはどのようなものか、科学技術的な側面から学習して頂くことが中心。今後は、社会にどうやって受け入れてもらうのかといったことにも焦点を当て、議論や検討を深めていくことが重要。
- 処分施設の建設・操業時の事業の姿や周辺環境への配慮、事業を受け入れて頂いた地域の将来像、長期的な共生のイメージなど、特に事業実施主体たるNUMOとしての考え方や姿勢が伝わるような提供情報を充実させ、一緒に考えて頂く。

### (主体的な学習のサポート)

- この問題に初めて触れる方と自ら学習を重ねた方との間で、関心や問題意識の所在・程度は大きく異なる。地域の市民グループ等による地下研究所の見学会や勉強会の実績は着実に増えてきている一方、科学的特性マップの提示により、これまで関心がなかった方にも関心を持って頂けることが期待される。
- 今後の関心の高まりと多様なニーズに、特にNUMOとしてしっかり応えられるよう、専門性の高いものから、この問題に初めて触れる方に関心を持って頂けるようなものまで、多様な説明素材を準備するとともに、多様な勉強会、見学会等をサポートする体制を充実させる。そうした学習活動の成果を共有しつつ、更なる学習活動を呼びかけることにより、学習の裾野を広げていく。